

木漏れ陽

9月

令和元年9月2日 第56号
発行佐賀市教育研究所
発行責任者 所長 松島正和

生き残りをかけて

夏休みも終わり、校舎に子どもたちの元気な声が響いているころと思います。各学校におかれましては、体育大会の練習や夏休みの宿題の整理など、本当にお忙しい日々をお過ごしのことと思います。行事も学習も充実させた2学期にするためにともに頑張ってもらいましょう。

新学習指導要領の全面实施を間近にひかえ、この8月には来年度以降使用する小中学校教科用図書の採択が行われました(中学校は来年度1年間のみ現在使用している発行者のものを延長して使用し、来年度新たに選定・採択が行われます)。教科書の見本本は各学校巡回させていただき、それぞれ貴重なご意見をいただきました。各学校からは、もう少しゆっくり比較する時間が欲しいというご意見を多数いただきました。見本本が各発行者から送付されてきたから、採択が行われる8月上旬まで本当に期間がなく、各学校には1週間ほどしかない中、それぞれのご担当の先生にはご負担をおかけしてしまいました。「この意見がどのように反映しているのかわからない」というご意見もありましたが、各学校からの意見書はきちんと選定委員会の方へお伝えをしており、検討材料にさせていただいております。採択結果と選定理由については佐賀市のHPに掲載しておりますのでご一読いただければと思います。新しい教科書の特徴として、子供たちが自ら学ぶという点に主眼を置いて編集されているものが多かったように思います。一つ一つの問題や解説が丁寧で、経験の浅い先生にもどのように教



ればよいのかわかりやすいものも多かったです。ただ、その分サイズ的に大きく、重くなっており、「置き勉」を前提に作られているのでは?と勘繰りたくなるものすらありました。よく言われることですが、「教科書『を』教えるのでなく教科書『で』教える」ことができるよう、新しい教科書とともにまた教材研究に励む日々が始まります。佐賀市教育研究所もそのお手伝いができるよう、新しい時代の教育研究の在り方を探っていきたいと思っています。

佐賀市教育研究所は昭和28年に設置され、爾来なんと66年もの長きにわたり引き継がれてまいりました。その時々々の教育課題に果敢に挑み、「未来を創る子供たちのために少しでも良い授業を」との思いで紡がれてきた先達の姿勢には本当に頭が下がります。昨年度1月に実施いたしました研究発表会には多くの先生方にご参会いただく中、児童生徒理解部と課題理解部、そして個人研究の発表を行い、大変有意義なものとなりました。研究の成果は、佐賀市共通のデータフォルダに保存しておりますので、各学校でもぜひご活用いただければと思います。この教育研究の炎を絶やすことなく次代へと引き継ぐことが我々の使命と考えます。しかし、変化の激しいこの時代これまでと同じやり方で行うことが、必ずしも継承していくことにはならないとも考えます。そこで以下の視点で見直しを行うこととしました。

- ① 働き方改革の視点から、所員に過度の負担を強いるものでないこと
- ② 新学習指導要領に求められる教職員の資質向上に役立つものであること
- ③ 佐賀市の研究委嘱校や教科等部会とのタイアップを通じ理論研究を深めながら、成果発表の機会を共有するなどして、より広くその成果が佐賀市の教職員に届くようにすること。
- ④ 個人研究について従来通り募集し、指導主事が指導及び相談にあたること。

これまでの「あたりまえ」にもメスを入れ、新しい価値を作り出す。そんな新指導要領に求められる力がまず我々教師自身に求められている。そのように思います。

今年度の研究は、「外国語」と「プログラミング教育」の2本としました。どちらも佐賀市にとって喫緊の課題であるばかりでなく、あえて行政的な話をすると、多額の予算を投入している分成果が求められるものでもあります。少しでも多くの先生方の糧となるよう研究所の在り方そのものも研究してまいります。

“It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is most adaptable to change.” (生き残る種とは、最も強いものではない。最も賢いものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。) ダーウィンの言葉です。

(文責：松島 正和)

平成31年度教育研究所がスタートしました。

今年度は、教育研究所の見直しを検討し、スタートが大変遅れましたことをお詫び申し上げます。

見直し1、課題研究部と児童生徒理解部を課題研究部のみにし、新指導要領で新たに取り入れられる「外国語活動・外国語」、「プログラミング教育」に特化しました。

見直し2、働き方改革をふまえ、所員の先生の負担軽減のため、開催回数や時間帯を見直しました。

見直し3、2と関連しますが、1月末に開催していた市の研究発表会を開かず、所員の授業を公開し、参観・研究会に参加いただくことで佐賀市全体に研究を広めます。

ただし、「外国語活動・外国語」は2月初旬の市の外国語の集まりの際、「プログラミング教育」は、1月7日のプログラミング指導教員養成研修の発表の際、別コーナーで研究の成果等を発表する場を設けます。

共通事項 顧問の先生をおき、研究を深め、年度末に研究紀要にまとめます。

「外国語活動・外国語」は、中島成章中校長に相談役になっていただき、小中の連携を図ります。

「プログラミング教育」は、小学校の様々な教科での可能性を探り、「はじめの一步」が提示できるように進めます。

所員の先生の取り組みについては、佐賀市のホームページと **71 全校共有共用フォルダ→小中学校共通→03 研究会** に掲載していますので、ぜひご覧ください。

課題研究部（外国語活動・外国語）				課題研究部（プログラミング教育）			
	所属校	職名	氏名		所属校	職名	氏名
顧問	富士小学校	教頭	吉田まりか	顧問	北茂安小学校	教諭	大家淳子
〃	春日北小学校	教諭	川原浩子				
所員	開成小学校	教諭	内山絵里子	所員	循誘小学校	教諭	野崎慎悟
〃	北川副小学校	教諭	内堀瑛太	〃	鍋島小学校	教諭	橋爪健太
〃	北川副小学校	教諭	長尾遼	〃	東与賀小学校	教諭	黒岩秋穂
〃	北川副小学校	教諭	川内丸友子				
〃	鍋島小学校	教諭	林田真美子				
〃	春日小学校	教諭	於保綾				

■ 「特別の教科道徳」の評価について

1学期の学校訪問では、各小中学校には大変お忙しい中、対応をしていただきましてありがとうございました。また、学校訪問と同時に、教務主任の先生に対して「教育課程ヒアリング」を行いました。多くの学校で教育課程に、「主体的・対話的で深い学び」、「資質・能力」、「カリキュラムマネジメント」等の文字が見られ、新学習指導要領の全面実施（2020年小学校、2021年中学校）に向けての取組が進められていることがうかがえました。また、「特別の教科道徳」に関しては、昨年度から小学校ですでに実施されており、様々な取組が行われていました。

夏休みには表簿点検を行い、指導要録等を拝見させて頂きましたが、「特別の教科道徳」の評価が、一つの単元（教材）や内容項目についての評価になってしまっている学校が多く見受けられました。

文科省国立教育政策研究所から出されている、「学習評価の在り方ハンドブック」に示されている「特別の教科道徳（道徳科）」の評価では

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては、観点別評価は妥当ではありません。授業において児童生徒に考えさせることを明確にして、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ります。

と書かれています。また、中学校も今年度から評価を実施することになっています。各学校で評価について、もう一度確認して頂きたいと思います。

（義務教育指導係長 木村 信人）